

Sydney program



目的

アントレプレナーシップ（起業家マインド）の育成を目的とした海外研修。グローバルな場で、異なる文化・ことばをもつ人たちと一緒に地球環境を持続可能なものにする新しい価値を創造することを目的とする



Day 1～4

western sydney universityで起業家精神を鍛えるレクチャーを受け、sydney school of entrepreneurship でアイスブレイクをして、初日はオーストラリアの学生達がテスラという企業とコラボしてビジネスアイデアを出したピッチを聞いていました。

Day 5

ワークショップを受けピッチの骨組みをグループで話し合い、色んな先生方からアドバイスをもらい決めた。その後シドニーシティの観光をしました。

Day8

HITACHIに行って自分たちのグループのピッチ案の大まかな考えを発表してアドバイスをもらった

Day6～7

週末はビーチに行ったり、オペラハウスに行ったり、世界遺産でもあるブルーマウンテンを見に行ったりしてオーストラリアを満喫しました。

～現地での研修～

HITACHIオーストラリアやSSE訪問



プロモーション動画

アボリジニー体験、シドニー動物園

講義、グループワーク



ピッチ



ACRCH



HOPE



VOLTAGE



problem

大型機械は化石燃料に依存しているため二酸化炭素の排出量が多い。コストや短期的な収益を優先し、代替エネルギーに切り替えられない。再生可能エネルギーを使った大型機械は従来の5倍のコストがかかる。

HITACHI

Inspire the Next



solution

グループ1 新しいエネルギー発電としてコンポスト発電を考えました。食品廃棄物などの生ごみをコンポストに入れ、バイオガスを燃焼し、電力を生みだします。

グループ2 HITACHIは環境技術に長期投資し、EV車両市場で競争力を強化し、持続可能な社会を目指します。

グループ3 HITACHIのユニホームに太陽電池の繊維を組み込み自ら発電し電力を自給自足します。

Q, このプログラムから何を得たのか



印象に残っているのはピッチの方法です。ピッチはアイデアを伝える場所としか考えていっていませんでしたが、ピッチのレクチャーを通じて話し方や順序、声の大きさ、スピードなどが成功のカギを握っていることを学びました。人前で英語で話すことに不安がありましたが「自信をもって自分の意見やアイデアを話す」という目標を達成することができました。

Q, 問題解決で大変だったことは何か



今回はエネルギーの転換が課題だったが、私たちの専門の分野でもなかったため、いかにアウトサイダーとして違った問題解決の道を提示できるかを問われていました。いかにinnovativeでuniqueな解決策を生み出すことができるかという困難がありました。

Q, 共同生活やオーストラリアの生活から何を学んだか



オーストラリアの人々は穏やかで、余裕をもって生活していると感じました。そのように感じた理由は、ものを落とした時にすぐに拾ってくれたり、私のつたない英語も理解しようとしてくれました。私も心に余裕を持って生活しようと思いました。

Q, この経験をどう生かすのか



いずれ社会人として人の上に立つことがあると思うので今回の経験を糧にリーダーとして、チームの仲間として話し合うことの大切さを頭に入れて取り組みたいです。海外で起業家について学んだという経験は他にはない非常にレアな経験だったし、これからいろんなことを学んで探究心を持って生きていきたいです。